宝塚の冬の風物詩「第41回ベガメサイア」 "闇の中での光、救い"がテーマ

(公財)宝塚市文化財団では、12月12日(日)に宝塚ベガ・ホールにおいて「第41回ベガメサイア」を開催します。

「ベガメサイア」とは べガ・ホールが開館した1980年の12月から一昨年まで毎年途切れることなく開催してきたコンサートです。例年、オーケストラとソリスト、指揮者、宝塚少年少女合唱団、そして公募による市民合唱団「ベガメサイアを唱う会」の総勢約100名が、ヘンデル作曲の「メサイア」全53曲を演奏、クリスマスシーズンにふさわしい華やかなコンサートとして長く親しまれてきました。

コロナ禍でも歴史をつなぐコンサートを 「ベガメサイア」はベガ・ホール開館当初から毎年続く唯一の公演で、阪神・淡路大震災発生の年にも開催し、2019年12月には第40回の節目を迎えました。ところがその翌年、新型コロナウイルスの感染が拡大、初めて公演中止を余儀なくされました。いまだコロナ収束が見通せない状況ではありますが、「ベガメサイア」の歴史をつないでいくため、今回は公演内容を変更し、再開を図ります。舞台上の密を避けるため、オーケストラはパイプオルガン伴奏に変更し、合唱の人数は半分に減らします。合唱出演者は感染防止対策をとりながら7月より週1回練習を進めています。

今回の公演テーマ "闇の中での光、救い"をテーマに、ヘンデル作曲「メサイア」(抜粋)と、木下牧子作曲「光はここに」を演奏します。「メサイア」は、タイトルのとおり"メサイア(救世主)"、すなわちイエス・キリストの生涯を題材としており、降誕から受難、救い、復活までを描きます。「光はここに」は、24歳で夭逝した詩人・立原道造(たちはら・みちぞう/1914-1939)の6編の詩に、木下牧子が曲をつけたもので、作曲者いわく"死と向かい合った者の哀しいほどの「生」への憧憬"が表現されており、日本語のレクイエムにふさわしいものです。「ベガメサイア」では初めて演奏します。新型コロナウイルスの感染拡大により世の中が混沌・闇と化し、多くの方が命を落とされた今、亡くなられた方々への哀悼と鎮魂の思いを込め、またやがてそこには"光、救い"があることを信じ、音楽を通じて希望を示したいと考えています。

今回新たに、バリトン歌手としても活躍する高曲伸和氏を指揮者に迎え、41回目の公演を開催します。 貴媒体におかれましても、この公演を取り上げていただければ幸いです。

2 会 場 宝塚ベガ・ホール(阪急宝塚線清荒神駅前)

3 出 演 高曲 伸和(指揮)、松岡 万希(ソプラノ)、岩佐 智子(パイプオルガン)

東 聖奈、木下 未恵(トランペット)、ベガメサイアを唱う会(合唱)

4 入場料 <ホール鑑賞>前売2,500円(当日3,000円)

<ライブ配信>1,500円

5 チケット発売日 11月12日(金)10:00~

6 主 催 (公財)宝塚市文化財団

7 助 成 文化庁「ARTS for the future!」補助対象事業

8 お問い合わせ 宝塚ベガ・ホール(水曜休館) 担当:浅井、岡田

Tel:0797-84-6192 Fax:0797-84-9772

E-mail: vegahall@takarazuka-c.jp

<掲載サイト 宝塚イベント情報 TAKARAZUKA-CLIP>

https://www.t-clip.info/event/event_detail.cfm?id=4420



出演者プロフィール

高曲 伸和(たかまがり・のぶかず)指揮

同志社高等学校、大阪音楽大学を経て同大学院修了。奨学金を得て渡蘭、高名なマックス・ファン・エグモント氏の元で研鑚を積む。バリトン歌手としてバッハ《マタイ受難曲》、ヘンデル《メサイア》、モーツァルト《レクイエム》、ベートーヴェン 交響曲第9番など独唱。中でも2014年《マタイ受難曲》のイエス役(いずみホール)は音楽之友誌上でも「充実の歌唱」と評を得た。舞台『フィガロの結婚』フィガロ、『魔笛』弁者、パパゲーノ、『こうもり』アイゼンシュタイン、『天国と地獄』プリュトンなど主要キャストで出演。ミュージカル『二都物語』(新国立劇場・オリックス劇場)主演シドニー・カートン役で新境地を



開拓。近年では楽劇『ガラシャ』(兵庫県立芸術文化センターKOBELCO 大ホール)フローレンス役の好演が記憶に新しい。一方指揮者として声楽作品を中心に幅広いレパートリーを展開。アンサンブル・フロットほかプロオーケストラへ客演、文化庁主催青少年のための音楽教育プログラムでも全国各地へ巡回公演を重ねている。2017-2019年 KBS 京都テレビ「おやかまっさん」レギュラー。アンサンブル・フロット音楽監督、大阪音楽大学演奏員、日本指揮者協会会員。

松岡 万希(まつおか・まき)ソプラノ

神戸市出身、14歳より声楽を学び、兵庫県立西宮高等学校音楽科を経て、京都市立芸術大学音楽学部声楽専攻を首席で卒業、東京藝術大学大学院修士課程音楽研究科オペラ専攻を修了。リリックな響きと豊かな声量を持ち、イタリア・ロマン派作品の演奏を得意としている。その歌唱は「第53回全国学生音楽コンクール」「第2回東京音楽コンクール」「第9回コンセール・マロニエ21」「第28回飯塚新人音楽コンクール」の全てにおいて総合第1位優勝と高く評価される。2001年京都市芸術文化特別奨励者に、2006年度文化庁新進芸術家海外留学制度にて研修員に選定されイタリアに渡り、フィレンツェを拠点に演奏活動を行う。帰国後はリサイタル公演を中心として各方面



のコンサート、オペラ公演にソリスト、主要役として出演、「第20回青山音楽賞」「第20回 ABC 新人コンサート音楽賞」「平成24年度ひょうごアーティストサロン賞」「兵庫県芸術奨励賞」など演奏活動への定評も得ている。CDアルバム「ストルネッロを歌う女」をリリース。近年は配信事業に着目、多くの歌手を牽引して配信コンサートをコーディネート、成功させている。東京二期会会員。

岩佐 智子(いわさ・ともこ)パイプオルガン

大阪音楽大学音楽学部器楽学科オルガン専攻卒業。スイス・バーゼル音楽院の大学院を2つの修士課程、コンサート及びソリストディプロムを得て修了。これまでにオルガンを土橋薫、Martin Sander、即興演奏を Rudolf Lutz の各氏に師事。大学院在学中にはバーゼル郊外のドルナハ改革派教会、バーゼル市内のメソジスト教会にて主任オルガニストを務める。ヨーロッパ各地で行われるマスターコースにても研鑽を積む。これまで、国内外で多数のコンサートの企画、演奏を行う。また、オルガン啓蒙活動として、現代音楽の演奏にも積極的に取り組むほか、ラジオ放送への出演や異ジャンルとのレコーディングに参加するなど、幅広く活動の場を広げ



る。病院や学校でのコンサート活動にも取り組む。2013年から2017年まで姫路パルナソスホールオルガニストとして、オルガン振興事業の企画や演奏、またオルガン講座の講師等を担当する。現在、日本キリスト教団マラナ・タ教会オルガニスト。一般社団法人日本オルガニスト協会会員。

合唱 ベガメサイアを唱う会

ベガ・ホールで「メサイア」を歌うために集まった合唱団。メンバーは公募、オーディションを経て、夏期より約半年練習し、12月の舞台を迎える。

公益財団法人 宝塚市文化財団